

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年5月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2893000162		
法人名	株式会社 フィールド		
事業所名	グループホーム こころあい武庫之荘		
所在地	(〒661-0033) 兵庫県尼崎市南武庫之荘 8丁目17番28号		
	電話	06-6185-3355	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町 2丁目 2番14-703号		
訪問調査日	平成 21年 3月 30日	評価確定日	平成21年5月19日

【情報提供票より】 [平成 21年 3月 5日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年6月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	19人	(常勤13人) (非常勤6人)	/ 常勤換算16.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC工法造り		
	地上 2階建て建物の1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000円	その他の経費(月額)	19,000円	
敷金の有・無	有り ( 円 ) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (280,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合)保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	261円	昼食	461円
	夕食	561円	おやつ	100円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成21年3月5日 現在)

利用者人数	計18名 … (男性3名) (女性15名)		
要介護1	1名	要介護2	4名
要介護3	6名	要介護4	6名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 82.5歳 … (最低 69歳) (最高 99歳)		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おぐらクリニック	北見歯科	西武庫病院
---------	----------	------	-------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

阪急「武庫之荘」駅から南西へ徒歩15分程。閑静な住宅街に新設されたホーム。地域福祉に対する職員の思いとその尽力により、運営推進会議の定期開催、地元の自治会への加入、近隣保育園児との交流…等々、地域を意識した活動に積極的に取り組み、開設から10カ月という短期間ながらも、「地域密着型サービス」を提供する施設として大切な存在になっている。地域住民をはじめホームをとりまく方々との関係も上手く築かれており、評価訪問当日もホーム前を通りがかった保育園児や引率の保育士と笑顔で挨拶を交わす場面を眼にし、地域との絆を感じる事ができた。今後も、管理者のリーダーシップのもと、協働の精神を大切に、さらなるケアの質向上へ向けて、職員の学習機会も増やししながら、理念の実践に向けて努力していただけるものと思う。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) なし(新設ホームにつき、外部評価は今回が初めて)。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 職員全員で取り組んだ(管理者が職員に聴き取りをし、まとめた)。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 運営推進会議は、民生委員2名、地域包括センター職員、利用者、家族、ホーム職員の参加のもと、2カ月に1回の頻度で開催している。会議では、ホームの近況報告、地区行事やボランティアの紹介のほか、ホームへの協力依頼もするなど、認知症高齢者介護について地域に理解を深めていただく場にもなっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 契約時に交わす文書(重要事項説明書)には苦情対応窓口(ホーム・行政)が明記され、また、家族の面会時には意見や苦情を言いやすいよう雰囲気作りにも努めている。3月には家族会が立ち上げられ、家族から聴き取った意見・要望や苦情は、運営推進会議にてとりあげ、ホーム運営に活かす仕組みができています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 自治会に加入し、月1回の定例会にも出席し、地域行事にも参加するようになった。近隣保育園などとの交流も行なわれ、また、近所の住民から差し入れも頂いたりすることもある。今後は、地域密着型サービスの充実に向け、認知症介護に係る相談や高齢者自身の相談窓口として、より広く地域貢献できるよう活動を進めてゆく予定。

## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい安心のある生活を愛と笑顔で共に歩む」を理念に、地域の協力も得ながら、その人らしい暮らしを支援している。	○	地域に、より根ざすため、地域密着型サービス介護の基本方針の策定を検討されてはどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム職員への理念の周知はもちろんのこと、職員会議や運営推進会議の場でも「その人らしい」生活を支援していくための考えの共有を図っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の準会員になっている。月1回の定例会にも積極的に参加しており、地域行事にも招待されるようになった。ホーム前は保育園の散歩道でもあり、ホームでお茶を振る舞うなどし、親交を深めている。認知症を抱える家族や高齢者の相談窓口として、気軽に訪問してもらえるよう努めている。	○	自治会を通じ、介護予防や認知症について、地域に向けた勉強会の開催なども企画してみてもどうか。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員や管理者は第三者評価の意義を理解しており、今後のホームの改善に活用してゆきたいと考えている。	○	評価の結果を関係者や家族にも報告し、皆で共有して頂きたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2カ月に1回、利用者、家族、民生委員、地域包括センター職員、ホーム職員の参加のもと、開催されている。ホームの近況報告のほか、地域情報の交換を行い、そこで出された意見は、職員会議で討議し、サービス向上につなげている。	○	運営推進会議に出席されない家族に対しても議事録を作成し送付するなど、会議の内容を報告してもらいたい。また、議事録の書式も検討され(できれば次回の討議内容も記すことで)、家族の意見や要望を事前に聴いておいてもよいのでは…。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	届出手続きその他の相談のほか、市の介護相談員の受け入れも行っている。外部者からの客観的な意見も積極的に聴く機会も設け、市町と共にサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の様子を各々に手紙で知らせるほか、面会の際にも細かく報告している。金銭管理も月1回報告し、家族に確認してもらっている。	○	ホーム通信の「定期的な発行」に向けて、検討をしてみてはどうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の意見箱の設置、内・外の苦情窓口のお知らせをしている。家族会も立ち上がっているなど、家族が苦情や意見を言いやすい環境づくりを進め、それらをホーム運営に反映するよう仕組みができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症高齢者ケアに適した人材採用に努めている。異動の場合には職員の重複体制を取り、利用者へのダメージを防いでいる。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修を受けられる機会を設け、かかりつけ医や看護師の協力も得て、勉強会を実施する(毎月)などOJTがなされている。	○	新任・現任職員を問わず、計画的な研修の仕組みを作ってもらいたい。職員への聴き取りを実施し、職員が望む研修を組み入れてもらいたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行なわれる尼崎GH部会へ参加し、ネットワーク作りや各ホームとの職員交換を行なっている。	○	他のグループホーム見学の機会を設けるなど、学びの機会にも工夫をしていってもらいたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの生活に無理なく馴染めるよう、入居前に自宅を訪問し、利用者側の不安、生活暦などを聴き取り、入居の日を迎えるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との日々過ごしていく中で、喜怒哀楽を共にし、自然と支えあう関係作りが芽生えている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、利用者の意向や希望を汲み取れるように、接し方や会話の工夫をし、本人本位に検討している。	○	利用者本意の介護計画を作成するためにも、また、これを職員間で共有できるよう、利用者との会話を記録してはどうか。
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員、看護師等がカンファレンス時に意見交換をして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスは毎月行なわれ、定期的な計画の見直しは3か月毎に、変化が生じた場合は随時に、関係者で話し合いをして、計画を作成している。	○	立案した計画に対しての実績が的確に読み取れるよう(到達具合が分析できるよう)、記録の工夫をしてみてもどうか。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問歯科、訪問理美容の利用のほか、医療連携体制を取っている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が協力医を主治医にしている。かかりつけ医とは24時間の連携体制を取りながら、ホームの看護師と一緒に利用者者の健康管理に努めている。他医院の受診支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針については早い段階から本人や家族との話し合いをしている。重度化した場合にも、医師や看護師等を交え、何度も話し合いの場を設けている。	○	ホームとしての終末期介護の指針「ホームとして、出来ることと出来ないこと」を示してもらいたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者それぞれの個性を理解した上で、誇りを損ねるような声掛けや対応をしないよう配慮している。記録等の個人情報の取り扱いもホームとして徹底している。	○	言葉遣いは、慣れ親しんできた頃に、「つつい…」ということもあるので、その点、気を付けてもらいたい。表面的なものではなく、常々、相手を(人生の先輩として)尊厳する思いを持ち続けてもらいたい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者自身の望む生活のリズムを大切に、1日1日の生活を支援している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<input type="checkbox"/> 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食と夕食は食材を業者から調達(注文)しているが、昼食については献立も含め利用者との協働により行なっている。寿司職人をホームに招くなど、「食」に関わるイベントも催している。個々の希望を可能な範囲で実現しながら、食事を楽しむ支援をしている。		
23	57	<input type="checkbox"/> 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の好みに合った支援を心がけている。一時間半程かけてゆっくり入浴される方もおられたり、また、銭湯が好きな方は、家族に協力してもらい出かけたりもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<input type="checkbox"/> 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かしながら、出来ること・出来そうなことを促し、役割とその自信を持ってもらえるよう支援を心掛けている。		
25	61	<input type="checkbox"/> 日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者それぞれの身体状況や希望を考慮し、公園への散歩や買い物などの外出支援を行なっている。年に数回の遠出の外出は、家族にも協力してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<input type="checkbox"/> 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員間で勉強会を行っており、周知が図られているが、玄関には鍵を掛けている。	○	施錠をしている安心感から、見守りに関しての職員の緊張感が薄れてしまい、事故に繋がることもある。職員の数が多い時間帯には(短時間でも)施錠をしない時間を作ってみるなども検討されてはどうか。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回以上、消防避難訓練を行なっている。緊急の場合には、近隣住民にも協力を得られるよう働きかけている。	○	定期的な訓練だけでなく、日常からの非常災害時の対応をより具体的に検討されることを望む。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は個別に記載している。利用者の状態に応じた食事形態の工夫や好みの配慮もなっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節に応じた装飾をし、行事の際に撮った写真を貼ったりしている。また、廊下にはソファを置くなどの工夫をして、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、使い慣れた家具や調度品を持参してもらい、居心地よく過ごせるように支援している。入所前の生活環境を大切にしている(畳を敷き、床に布団を敷いて就寝する利用者もいる)。		

※  は、重点項目。